



11月4日(金)各学年の総合的な学習の時間から

11月4日(金)は一日、授業を総合的な学習の時間にして、各学年の計画による学習が行われました。1学年は、各施設や上田養護学校との交流学习がコロナ禍のためできなくなり、代わりにプレゼントを作りお渡しする活動、2学年は、キャリア学習の一環としての「地域の方に学ぶ、地域とつながる学習」、3学年は、地域への感謝の気持ちを込めた上田バイパスの清掃活動です。コロナ禍ではありますが、地域と共にある一中の学びを止めない学習を各学年で考えています。

1 学年「プレゼント作り」

プレゼントをお渡しする施設や学校は、ハッピーシニアリビング上田・うえだみなみ敬老園・ケアライフ古里・デイサービスセンターとりい・神川デイサービスセンター・上田養護学校です。生徒は、「地域の高齢者の方に元気を届けられるものはどんなものだろうか」と考えながら、自分たちで作ることができるものは何かを考えていました。そして、作ったプレゼントは「壁面装飾・2023 カレンダー・シトラスリボン・文化祭合唱 DVD」です。1年生の思いが込められたプレゼントができました。



2 学年「地域の方に学ぶ、地域とつながる学習」

長野経済研究所や地域コーディネーターにご協力をいただき、木工・板金・生花業・民芸・伝統芸能・接客業・体づくり、救命救急法などの15講座を開設したキャリア学習になりました。生徒たちは、この学習を通して、専門的な技に触れたり、地域の歴史を感じ取ったりしていました。また、ある講座は、客のニーズに応えるためのアイデアを出すというお題が出題され、その難しさを感じながらも、一生懸命に考えている生徒の姿がありました。この講座を通して、「一人一人が、一つ一つの仕事に責任をもつこと」や「チャレンジすることが大切であること」等を学んでいました。



3 学年「清掃活動」

「少しでも地域の人たちの役に立ちたい」「いつもお世話になっている方々への感謝の気持ちをこめていきたい」等の思いをもちながら、3年生は上田バイパスの草取りをしました。作業中、「ありがとねえ」と地域の方に声を掛けていただき、さらに「もっとちゃんとやらねば」と思いを強くした生徒もいました。作業後は、大量の草を学校へ持ち帰り、疲れた様子も見せていましたが、地域の方に感謝されたことや、自分たちが地域に貢献できたことに達成感をもつ3年生でした。



11/2 一中区の小中学校人権同和研修会から

後期人権同和学习月間では、主に部落差別問題を扱った同和学习を進めてきました。その中で、11月2日（水）に、講師をお招きして、一中区の小中学校（東小・神川小・上田養護・第一中）の職員研修を行いました。内容は、1年3組、2年2組、3年3組の授業参観と授業研究会です。

授業の様子から

1年3組では、「なぜ部落差別が起こってしまったのか」を考え、話し合う授業でした。ある生徒は、いろいろな仕事についての資料を見た後に「皆にとってありがたいことや人のためにしてくれていることなのに、穢れるとか、差別することにつながるのはおかしい。」と思いながら、「差別することが残念だ。」「なぜ、差別をしてしまうのだろう」と感じていました。



2年2組では、「差別を受けた人々がどんな気持ちで差別に立ち向かっていったのか」を考える授業でした。ある生徒は、「被差別部落に生まれてただけなのに、差別が起きるのはおかしい。何もやっていないのに、なぜこんなことになるのかわからない」と考えていました。そして、同じ人間なのに、差別が生まれてしまうことへの疑問をもち、誰もが平等な社会でなければならないことを考えていました。



3年3組では、「被差別部落の人が結婚する際に、相手に『そんなこと関係ないよ』と言ってほしくなかった登場人物の思い」について考え、話し合う授業でした。ある生徒は、良かれと思って言ったことが、相手を傷つける可能性があることに目を向けていました。「関係ない」と言われると、他人事のような気がする、解決していないのに問題が終わっている感じを受けるなど、「一緒に差別と向き合う」ということの大切さに気付き始めていました。



参観者の感想

一中の授業を参観した東小や神川小の先生方より、次のような感想をいただきました。

- ・昨年一年間、一緒に学習した生徒が、授業で活躍している姿を見て、良かったと思いました。真剣に考えを交わす場面が多かったです。
- ・差別の起こりと言われる仕事や携わる人々の立場を「自分の事」「自分だったら…」と考えながら記述する姿が多く見られ、一段と成長したなあと感じました。
- ・一緒に考えていこう、学んでいこうと、今まであまりよく知らなかった人権問題について学習したことから、さらにもっと知っていきたいと考えていた生徒たちの姿が印象的でした。
- ・自分の意見をしっかり伝え、友達の発表に「なるほど」「確かにそういう考えもあるよね」と声を掛けている生徒もいました。部落差別を歴史上のこととせず、現在進行形で起きている、それに対して自分はどう行動できるか、自分ごとで考えていくきっかけになったと思います。

